

五條十八景を訪ねて

第十四景「栄山瞑鐘」

はんざん えんじゅ はんせん かずみ
 半山の烟樹 半川の霞
 ふうがい そしやう うんがい からす
 風外の疎鐘 雲外の鴉
 いかん こえこえ
 奈ともする無し声々
 はる お
 春を帯びて去るを
 せきやう お
 夕陽 落ち尽くす寺門の花



霧につつまれた山の木々、川にはぼんやり霞がかかっている。風に途切れ聞こえてくる鐘の音、雲のかなたのねぐらに帰る鳥が鳴きながら飛んでいく。鐘の音にも鳥の声にも、行く春を惜しむ哀調が身にしむ思いがするが、

行く春を止める何の手立てもない。夕陽が沈もうとする頃、寺の門のほとりの桜の花はすっかり散り落ちてしまった。

栄山寺は古くは前山寺と呼ばれ、藤原家の始祖・藤原武智麻呂が七一九年に建てたと伝わります。武智麻呂は藤原四兄弟の長男で、朝廷の高い位についていました。その後、四兄弟は天然痘にかかり、相次いで病死しました。



藤原武智麻呂の墓

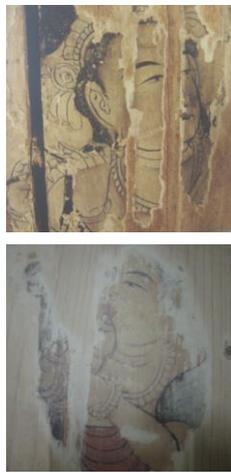


栄山寺八角堂

八角堂は、武智麻呂の子の仲麻呂が、父の菩提を弔うために建てたと伝わります。武智麻呂の墓は、初めは奈良市

の佐保山にありましたが、七六〇年に、栄山寺北側の山の上に造られました。八角堂が建てられたのは、この頃ではないかと考えられています。

八角堂内陣には、いろんな楽器を演奏する奏楽菩薩像が描かれています。その楽器は、笙、竝笛、横笛、貝、鼓、篳篥（竝琴）、鉞子（小さなシンバルのようなもの）、琵琶などがあり、両手を広げて舞う姿も描かれています。



「風外の疎鐘」と詠まれた梵鐘は、八角堂と共に国宝に指定されています。銘文から延喜十七年（九一七）の製作です。京都の神護寺、宇治の平等院の鐘と共に「平安三絶の鐘」として知られているもので、四面に小野道風の書と伝えられる陽鑄の銘文が施されています。

伊斯許理度売命

天照大神が天

の岩戸に隠れた

とき、思金神が

伊斯許理度売命

に鏡を作らせま

した。この鏡で天照大神を映し、天の

岩戸から連れ出すことができました。

名前の「伊斯」は「石」で、「許理」

は鏡を製造することに精通している

ことを意味し、「度売」は女性を表わ

しています。つまり、「石の鑄型を用

いて鏡を鑄造することに精通した特

別な女性」という意味になります。

伊斯許理度売命は鑄物の神・金属加

工の神として信仰されています。伊斯

許理度売命を祀る主な神社として、輔

神社（大阪市天王寺区）、中山神社（岡

山県津山市）、鏡作坐天照御魂神社

（奈良県磯城郡）、岩山神社（岡山県

新見市）などがあります。



七夕祭を

斎行します

七夕祭は「しちせきさい」と読みます。

七夕は、日本古来よりある禊行事で、乙女が着物を織って棚にそなえ、神様を迎えて秋の豊作を祈ったり人々の穢れを祓つたりするものでした。選ばれた乙女は「棚機女」と呼ばれ、川などの清い水辺にある機屋に籠って神様のために心をこめて着物を織ります。

平安時代に成立した「宇津保物語」の記述によれば、貴族の女性が七夕の日に川で髪を洗う様子が描写されています。この風習も禊の一種と考えられています。

七夕祭は旧暦七月七日に行われます。今年の旧暦七月七日は新暦の八月十四日ですが、本宮では八月七日に斎行します。どうぞ、皆様おそろい御参拝ください。

○令和三年八月七日（土）雨天決行

○初穂料 一家族千円

一家族につき一枚、木製花

御札を授与します。

六時半〜一願一燈

一人にひとつ献燈できます。

※ろうそくは持ち帰ることはできません。



七時〜七夕祭

参列者の皆様の健康長寿を祈ります。



オリンピックで
鍵屋弥兵衛を
見よう

一年延期された東京オリンピックが、七月二十三日から八月八日までの十七日間、東京・パリンピックが八月二十四日から九月五日までの十三日間開催されます。コロナで揺れに揺れた東京開催ですが、いよいよ突入です。

皆さんは江戸時代の鍵屋弥兵衛という人を御存じでしょうか。大塔町篠原の出身で、萬治二年（一六五九）に江戸に出て日本橋横山町で店を開きました。葦の管に火薬を練って小さな

玉をつくり、「火の花」「花の火」「花火」と称して売り出したところ、飛ぶように売れたといわれています。これが花火師・鍵屋の誕生です。

正徳元年（一七七二）には、隅田川で初めての花火を鍵屋が打ち揚げました。將軍家宣の命で鍵屋が流星を打ち揚げたとの記録が残っています。

それから二百五十年の時を過ぎて、天野安喜子さんが鍵屋十五代目を襲名しています。天野さんは高校生のとき福岡国際女子柔道選手権大会で銅メダルを獲得した柔道家です。その後、火薬や花火製造の免許を取るとともに、国際柔道連盟の審判員の資格を取得されています。

そして、なんとなんと、東京オリンピックで柔道競技の審判員を務められます。鍵屋弥兵衛につながる人物を、私達はテレビを通して拝見することができますのです。女子柔道の試合より、審判員に注目するオリンピックになりそうです。

Instagram @goryohongu
Twitter @goryohongu

#御霊本宮 #goryohongu を付けて投稿してください。

公式ホームページ
<http://goryojinja.or.jp>

日本書紀にみる

十一代垂仁天皇(九)

三十四年春三月二日、天皇は山城に出かけました。時に、側仕えの者が言いました。「この国に美人がいます。

綺戸辺かはたとへといい、顔かたちが良く、山城おおくに大国の不遅ふちの娘です」天皇はそこで矛をとってこれに祈りをして、「その美人に会ったら、必ず道路にめでたい瑞しるしがあるように」と言いました。

行宮かりみやに着く頃に、大亀が河の中から出てきました。天皇は矛を挙げて亀を刺しました。亀は、たちまち岩になりました。傍の人に、「この物から推測すると、きっと靈験があるだろう」と言いました。こうして綺戸辺を召して後宮に入れました。そして磐衝別命いわつづきのみことを生みました。これは三尾君みおのきみの先祖です。これより先に、山城の菟幡戸辺かりはたとへを召されました。そして三人の男子を生みました。第一を、祖別命おそわりのみことと、第二を、五十日足彦命いかりしひこのみことと、第三を、

三を、胆武別命いたけるわけのみことと、五十日足彦命いしだのみことの子は石田君の先祖です。

三十五年秋九月、五十瓊敷入彦命いにしきいりびこのみことを河内国に遣わして、高石池たかしのいけ、茅渟池ちぬのいけを造らせました。冬十月に倭の狭城池さきのいけと迹見池とみのいけを造りました。この年、諸国に令して池や溝を沢山開かせました。その数は八百あまり。農業を大切な仕事とし、これによって百姓は富み豊かになり、天下太平となりました。

三十七年春一月一日、大足彦命おほあしひこのみことを立てて皇太子としました。十九年冬十月、五十瓊敷入彦命いしじきいりひこのみことは、茅渟ちぬ(和泉の海域)の菟砥うとの川上宮に行き、劍一千口を造らせました。よってその劍を川上部かわかみの上と、またの名を裸伴あかはなと、川上宮に納めさせました。この後に五十瓊敷入彦命いしじきいりひこのみことに石上神宮の神宝を司らせました。ある説によれば、五十瓊敷皇子は、茅渟の菟砥の河上に行き、鍛冶の名は河上という者と呼んで、太刀一千口を造らせました。この時に、楯部たてべ、倭文しとや

部べ、神弓削部かむゆげべ、神矢作部かむやまきべ、大穴磯部おほあなしべ、泊衝部はつかしべ、玉作部たまずりべ、神刑部かむおとさべ、日置部ひおきべ、太刀佩部たちばきべなど、合わせて十種の品部しらのみやつこを五十瓊敷皇子に賜りました。その一千口の太刀を忍坂邑おさかのむらに納めました。その後、忍坂から移して石上神宮に納めさせた。このときに神が、「春日臣かすがのおみの一族で、名は市河いちかわという者に治めさせよ」と言いました。よって、市河に命じて治めさせました。これが現在の、物部首ものべのおびとの先祖です。

八十七年春二月五日、五十瓊敷入彦命いしじきいりひこのみことが妹の大中姫おほなかつひめに「私は年をとったから神宝を司ることができない。今後はお前がやりなさい」と言いました。大中姫は辞退して「私はか弱い女です。どうしてよく神宝を収める高い宝庫に登れましょうか」と言いました。五十瓊敷入彦命いしじきいりひこのみことは、「神庫が高いといっても私が梯子を造るから庫に登るのが難しいことはない」と言いました。諺にも言う、「天の神庫は樹梯はしたてのままに」というのは、これがその由来です。



大中姫命おほなかつひめのみことは、物部十千根大連ものべのとおちねのおおむらじに授けて治めさせました。物部連が今に至るまで石上の神宝を治めているのは、このことによります。昔、丹波国の桑田村みかせに、名を甕襲みかせという人がいました。甕襲みかせの家に犬がいて、名を足往あしきと、この犬は山の獣であるムジナを食い殺しました。その獣の腹に八尺瓊勾玉やさかにのまがたまがありました。それを献上しました。この宝は現在、石上神宮にあります。(次号につづく)